

# 高規格道路

## 都城志布志道路の全線開通について

～整備状況と開通により期待される効果～

宮崎県 県土整備部 道路建設課

### 1. はじめに

高規格道路「都城志布志道路」の「都城 IC～乙房 IC」間が令和7年2月15日に、「志布志 IC～志布志港」間が同年3月23日に開通するとの発表が国土交通省と鹿児島県からそれぞれなされ、いよいよ、都城志布志道路（約44km）の全線が開通することとなりました。

本稿では、都城志布志道路の整備状況と全線開通により期待される効果について、ご紹介いたします。



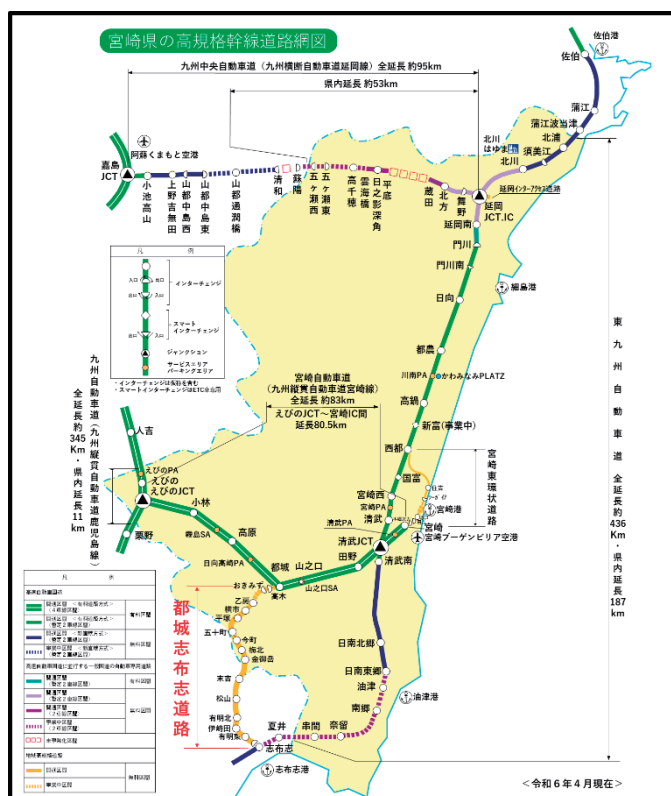
写真-1 整備が進む都城志布志道路

### 2. 路線の概要

都城志布志道路は、宮崎県都城市を起点に鹿児島県曾於市を經由して鹿児島県志布志市に至る延長約44kmの自動車専用道路であり、国や鹿児島県とともに整備を行っています。

本路線が整備されることによって、これまでは約70分を要した都城 IC から志布志港間の所要時間は約40分へと大幅に短縮されます。

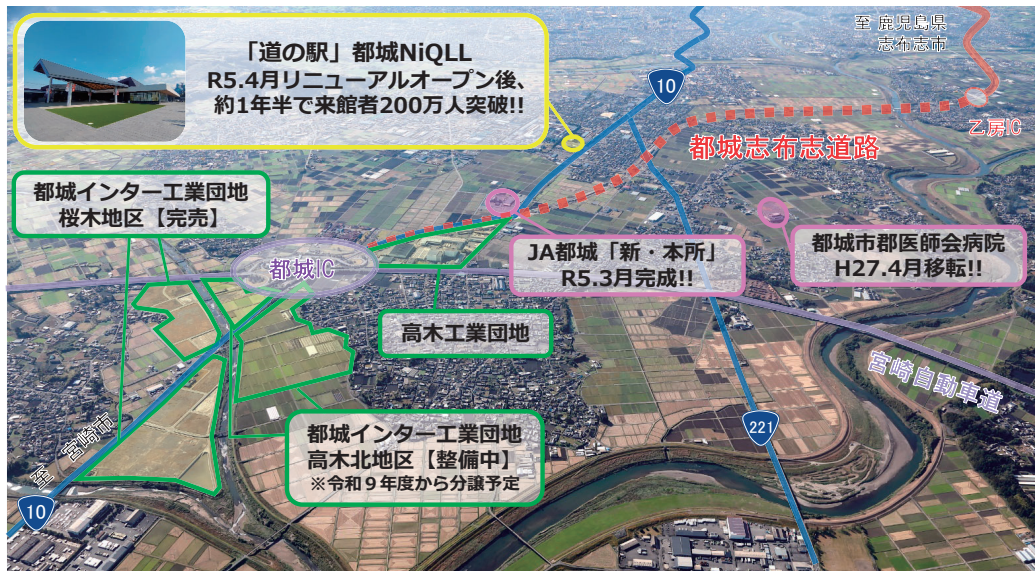
宮崎自動車道「都城 IC」及び東九州自動車道「志布志 IC」と接続して広域ネットワークを形成するとともに、国際バルク戦略港湾である「志布志港」と直結する本路線は、物流の効率化や救急医療活動の迅速化、防災対策機能の強化を担う県内でも有数の重要な道路です。



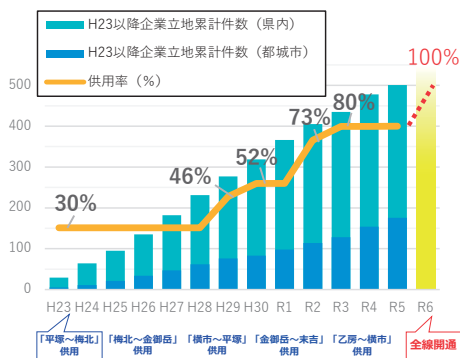




## 都城IC周辺の地域経済が活性化！



## 企業立地件数が年々増加！



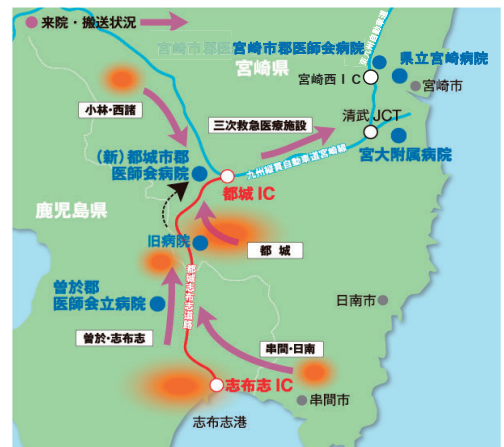
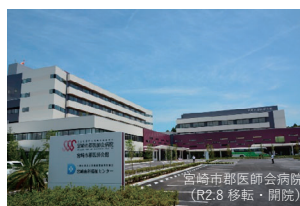
輸送時間が短縮され、安定的な輸送が可能！

## (2) 医療の道

都城志布志道路の沿線では、都城市を中心市とした、「都城広域定住自立圏（関係市町：宮崎県三股町、鹿児島県曾於市、志布志市）」が形成されており、圏域の自治体間で様々な連携がなされています。特に医療面においては、圏域内の住民の多くが日常的に都城市内の医療機関を受診するなか、重症救急患者の医療を担う第二次救急医療施設（都城市郡医師会病院）が平成27年度に都城志布志道路の沿線に移転したことにより、本道路の整備は、救急搬送時間の短縮による傷病者の生存率の向上に直結するほか、搬送時における揺れや振動が抑えられることで、患者の負担軽減が期待されます。

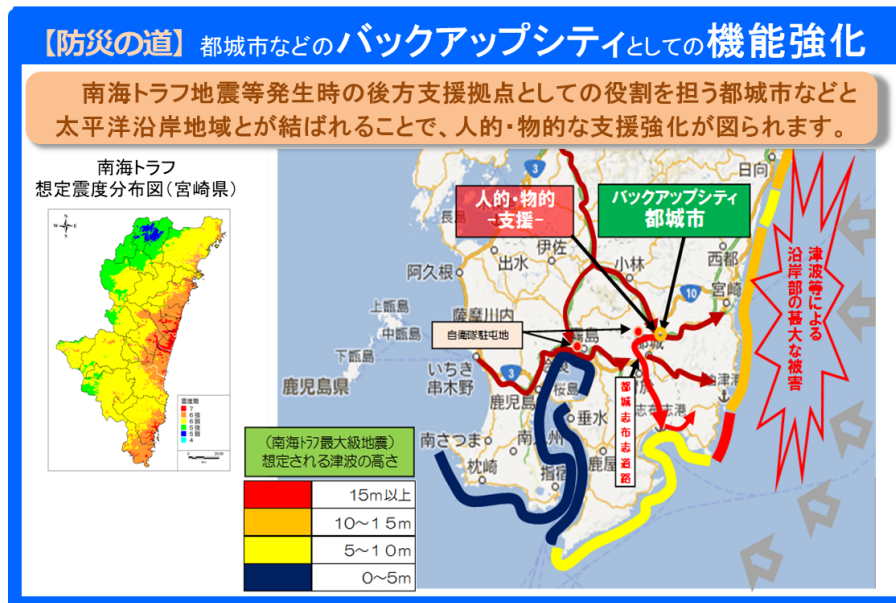
### 【医療の道】迅速な救急搬送による圏域の新救急医療体制構築

都城IC付近に移転した救急医療拠点施設（都城市郡医師会病院）や三次救急医療施設等への救急搬送時間の短縮により、救急搬送時の生存率が向上します。



### (3) 防災の道

本県では、南海トラフ地震が発生した場合には、宮崎市をはじめとした沿岸部では大きな揺れや津波が発生し、甚大な被害が想定されています。内陸部に位置し、「後方支援拠点」として震災発生時における被災地での医療救護活動や復旧活動の要となる都城市と、沿岸部に位置する志布志市が高規格道路で結ばれることで被災地へのアクセス性が向上し、南九州における防災機能の強化が期待されます。



## 5. おわりに

1994年の計画路線指定から約30年の時を経て、ようやく本年3月に都城志布志道路の全線が開通します。このことで、宮崎自動車道や東九州自動車道などと一体となった県南・県西地域の広域交通ネットワークが強化されます。

しかしながら、本県全体を見渡すと、高速道路をはじめとする道路ネットワークの整備は未だ道半ばであり、平時・災害時を問わない人流・物流を支える強靱で信頼性の高い道路ネットワークの整備は喫緊の課題です。

このため、都城志布志道路をはじめとする高規格道路等の整備効果を広く波及させるためにも、今後とも引き続き、道路ネットワークの整備に取り組んでまいります。